

菅義偉首相による学問の自由を侵害する日本学術会議会員推薦者の任命拒否に関し、違法な秘密裏の法解釈適用に強く抗議するとともに、拒否理由を明らかにし、あらためての任命を求める。

2020年10月5日 全国地域人権運動総連合常任幹事会

大分県連・「人権問題を考える講演会」を開催

新たな差別要因が新たな差別意識を生む それがネット上の落書きに



人権連大分県連（左の写真で、挨拶をする荒木ひろ子会長）は10月18日、宇佐市内で「人権問題を考える講演会」を開催。講師は、大分県人権連大分県連（左の写真で、挨拶をする荒木ひろ子会長）は10月18日、宇佐市内で「人権問題...」

批判。今なお残る、隠れ



水平社創立百周年を どう迎えるのか

立命館大学特任教授・総合社会福祉研究所理事長 石倉 康次

「同和行政」同和特別扱い、あらためて同和行政を実施することで何が起るのか。部落差別解消推進法の問題点はそこにあるのでは、と問いか

水平社創立の記念の日を過去の栄光の歴史をたどり出すだけの日として迎えることはできません。私はこの100年の歴史から三つのことを学びたいと思っています。一つは、第一次世界大戦後の資本主義経済の浸透を受けて社会に進出していった若者たちが、企業や軍隊や学校でのきびしい部落差別に直面し、それまでの部落改善運動の不徹底さを批判しつつ部落民自身の行動による徹底した解放を求め、運動の先頭を切り開いていったことです。問題の根本的解決の方向を求める運動に若者たちは、自身の人生の未来を重ね清新なエネルギーをこの運動に傾けました。そして、その思想と実践を我が国の歴史に固有の人権宣言とも言える「水平社宣言」に結実させました。創立大会で朗読されたこの宣言は、全国の部落住民だけではなく、日本のメディアに衝撃を持って迎えられました。その宣言は、今日の私たちに、格差貧困、非正規雇用、ヘイトスピーチ、ジェンダ

熊本

球磨川流域豪雨被害、復興未だ人権連支援の義援金

全国人権連と同九州プロックは10月7日、熊本県庁の球磨川流域復興局などを訪れ、7月の豪雨被害復興支援の義援金を渡し、被害の各市町村の早急な復興を願い、激励しました。訪問には人権連事務局次長で同プロック事務局長の植山光朗氏と九州プロック副会長で地元熊本の菅井幸夫熊本県連会長が参加しました。訪問団はこのあと、甚大な豪雨被害を蒙った人吉市と球磨村を訪れ、復旧



熊本7月水害復興支援の義援金を県に手渡す代表



国宝 阿蘇青井神社の参道の欄干が崩壊

の状況を視察しました。人吉市では2008年に本殿、拝殿、楼門など5点が国宝に指定された青井阿蘇神社を訪れ、被害の実態を視察。楼門や本殿の軒先まで冠水した泥の後が梁柱に残り、球磨川氾濫の激しさを示しています。神社関係者の話では「賽銭箱がプカプカ浮いて流された」といいます。楼門の前にかかる太鼓橋のコンクリート製欄干も濁流の水圧で流され、現

在、立ち入り禁止のテープが張られています。7月4日、豪雨で浸水し、14人が犠牲になった球磨川の特別養護老人ホーム「千寿園」では、豪雨から3カ月たった現在も復旧は手つかず、敷地内に立ち入り禁止のテープが張られ、復旧の目途が立っていません。千寿園に隣接する球磨村立渡小学校も校舎全体が冠水。泥水をかぶった机や椅子、マットなどの教育器材は、校庭に山積みされたままです。生徒たちは近くの学校にプレハブを建て、授業を受けており、復興未だしの感です。

水平社創立の記念の日を過去の栄光の歴史をたどり出すだけの日として迎えることはできません。私はこの100年の歴史から三つのことを学びたいと思っています。一つは、第一次世界大戦後の資本主義経済の浸透を受けて社会に進出していった若者たちが、企業や軍隊や学校でのきびしい部落差別に直面し、それまでの部落改善運動の不徹底さを批判しつつ部落民自身の行動による徹底した解放を求め、運動の先頭を切り開いていったことです。問題の根本的解決の方向を求める運動に若者たちは、自身の人生の未来を重ね清新なエネルギーをこの運動に傾けました。そして、その思想と実践を我が国の歴史に固有の人権宣言とも言える「水平社宣言」に結実させました。創立大会で朗読されたこの宣言は、全国の部落住民だけではなく、日本のメディアに衝撃を持って迎えられました。その宣言は、今日の私たちに、格差貧困、非正規雇用、ヘイトスピーチ、ジェンダ